2004/01/10

議事録に対するコメント

経営学部　吉井康雄

今回教授会で配布された議事録に対して、意見を求めておられるのであろうということで、私の感想を述べます。

議事録を記載する精神は、私個人は史記をあらわした司馬遷にあると考えています。すなわち、教授会メンバーが発言した事実を事実として表す、ということで、これは責任ある大切な仕事と強く認識しています。

教授会の議題により、議事録を書くものの焦点が異なるかとは思いますが、教授会でいわれた人事に関するところに焦点をあてて意見を述べます。

2003年6月6日の件

コメントについて、どの項目に対して、誰がどのような問題意識で発言したか、といったことが記載されているでしょうか。

少なくとも第3者が読んでその意味が理解できるように書くべきです。

私達教授会メンバーは発言したことに責任をもっている訳ですから（発言のミスは善意でわかるでしょう）名前を載せてよいと思います。他大学でもその方の名前を明記しているとのことです。

具体的に。

③[ベンチャービジネス論＊＊＊＊]担当者の採用について《二宮審査委員長》

この議事録の内容と、下記に示すような問題意識で発言した私の内容が明確に書かれているでしょうか。

＜経緯＞

「二宮先生のレフェリーは、ベンチャービジネス論ではなくマーケティングの先生です。ベンチャービジネス論の業績が全くないではないですか」という私の意見に対して、

----- 大学院設立における申請条件はベンチャービジネス論ではなく、その方がパスできるように採用人事を適宜変更すればよい、という学部の判断です。

「採用の判断基準を示してください」という私の要求に対して、

----- 二宮先生の回答は、ベンチャービジネス論は全く新しい分野でどこの大学も不明確なまま進めているのが現状です。吉井先生はそれではどんな基準をおもちですか、というレフェリーにふさわしくない私への反論が返ってきます。

＜問題点＞

このようなレフェリーが引き起こす問題は、

・私たち学部の今後数年、十数年にわたる競争力の方向付けをする重要なイベントが採用人事です。このような採決スタイルは学部の今後の競争力強化に対してリスクが大きい、と危惧します。

・採用人事委員会がどのような観点で審査したのか、大変疑わしい（公明正大の精神に欠ける）。

・採用基準が不明確な状態でマーケティングの先生を採用することは、ベンチャービジネス論として公募された諸先生の論文などがどのように判断されたのか、と疑わしく、外部に対して「信頼という財」を消失するものと判断します。

・将来、ベンチャービジネス論をとおして、当然習得するであろう学生の期待（付加価値、便益）を裏切る行為でもあります。

なお、「ベンチャービジネス」に対する採用の視点は、どのような学部にしようとされているかによりますが、思いつくまま列挙すると、

(1) ベンチャーを育成する観点での講義とそれに関する研究をしている先生の採択

ベンチャースピリット、ベンチャーに求められるソフトテクノロジー、技術系ではない立場での社会科学系でのメソドロジー

(2) ベンチャー企業を支援する観点での講義とそれに関する研究をしている先生の採択

経営活動の支援（研究開発型ベンチャーに対する資金調達や経営管理、知的財産権などの支援）

(3) ベンチャー企業の企業行動に関する講義とそれに関する研究をしている先生の採択

（企業内ベンチャーをはじめ、SOHO、産官学発ベンチャーなど）

このような問題意識による実際に私が発言した内容が書かれていますか。

香川先生の特任人事の経緯、今回のようなケース、さらには2部担当をはずされた私のケースのような人事など、その事実情報が正確に議事録のなかに伝えられるべきです。

重要とは思いませんか。

以上